

## インフルエンザ予防接種予診票

	診察前の体温	度 分
住 所	対馬市	
ふりがな 氏 名		男 ・ 女
生 年 月 日	明治・大正・昭和・平成	年 月 日生 (満 歳)

質 問 事 項	回 答 欄		医師記入欄
1. 今日の予防接種の効果や副反応などについて理解しましたか？	はい	いいえ	
2. ニワトリの肉や卵などにアレルギーがありますか？	はい	いいえ	
3. <u>インフルエンザの予防接種を受けたことがありますか？</u> <u>その際に具合が悪くなったことがありますか？</u>	はい	いいえ	
4. 4週間以内に予防接種を受けましたか？ 予防接種名 ( )	はい	いいえ	
5. 最近1ヶ月以内に熱が出たり、病気にかかったりしましたか？ 病名 ( )	はい	いいえ	
6. 現在、何か治療中の病気がありますか？ 病名 ( ) <u>治療(投薬など)を受けていますか？</u> <u>その病気の主治医には、今日の予防接種を受けてもよいといわれ ましたか？</u>	はい	いいえ	
7. 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患などにかかったことがありますか？ 病名 ( )	はい	いいえ	
8. けいれんを起こしたことがありますか？	はい	いいえ	
9. 免疫不全と診断されたことがありますか？	はい	いいえ	

医師記入欄	以上の問診及び診察の結果、今日の予防接種は ( 可能 ・ 見合わせる ) 医師署名
-------	--

<b>インフルエンザ予防接種希望書</b> (医師の診察の結果、接種が可能と判断された後に記入してください。)	
<p>私は、医師の診察・説明を受け、インフルエンザの予防接種の効果や副反応などについて理解した上で、接種を希望します。</p> <p style="text-align: center;">保護者または本人の署名</p>	

ワクチンロット番号	実施場所・医師名・接種年月日
インフルエンザHA ワクチン Lot No.	実施場所 長 崎 県 上 対 馬 病 院
	医 師 名
	接種年月日 平成 年 月 日

# インフルエンザ予防接種について

(予防接種前に必ずお読みください)

1. 接種にあたっては、本人または保護者の希望により行います。
2. 接種にあたっては接種前の体温、全身状態をチェックし、診察した上で行います。従って問診票に間違いのないように注意して記入して下さい。また他に何か気になることがあれば、担当医に相談して下さい。
3. 診察の結果接種可能と判断された場合に上腕伸側に皮下注射します。
4. 接種後の注意
  - 1) 注射部位は、清潔にして下さい。
  - 2) 予防接種後24時間は、副反応に注意し、観察して下さい。
  - 3) 予防接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射部位は、石鹸をつけた手で洗う程度にして下さい。また、発熱や体がだるいなどの症状があるときは、入浴を控えて下さい。
  - 4) 予防接種後、過激な運動や飲酒は、それ自体体調の変化を来す恐れがありますので接種後24時間は避けて下さい。接種後1時間は、激しい副反応が出現する恐れがありますので、特に安静を心がけて下さい。
  - 5) 予防接種後1ヶ月は、抜歯や扁桃手術、ヘルニア手術等、緊急を要しない場合、原則として避けることが望ましいです。緊急性の高い手術等の状況の時にはこの限りではありませんが、その場合医師と相談して下さい。また他の予防接種は、1ヶ月間程あけて計画して下さい。
5. 副反応について
  - 1) 通常見られる反応  
接種部位の発赤・腫脹・硬結があります。発赤・腫脹は数日で消失しますが、発赤・腫脹・疼痛が強い場合には、局所を冷やして下さい。硬結は、次第に小さくなりますが、1ヶ月以上残ることがあります。また、37.5℃以上の発熱(0.03%：1万人に3人)を生じることもあります。発熱した場合には、一般的な対応で良いのですが、他の原因による発熱もありますので、充分観察して下さい。経過を見て、様子が変わったと思ったら病院を受診して下さい。
  - 2) 予防接種場所で稀に起こりうる副反応  
嘔吐、蕁麻疹、注射に対する神経性ショック、アナフィラキシーショック(血圧低下、意識消失等)、けいれん等があります。直ちに医師に知らせて下さい。
  - 3) 予防接種後脳炎等の神経疾患を生じうることも否定できません。
  - 4) 予防接種液中の成分(チメロサル等)に反応してアレルギー反応を起こす人もいます。この様な人は、他の予防接種でも同様の症状を起こしやすく、接種不可能なことがあります。他の予防接種液で反応が起きたことのある人は、担当医に知らせて下さい。場合によっては、予防接種液少量で皮膚試験を行って、異常がなければ分割をして接種することもあります。この場合には、その前に十分な説明を行います。

副反応には、予防接種との因果関係を確定できない偶発疾患の合併が混入している場合もありますが、ワクチンの改良が進み副反応が最も少ない部類と言われるようになった今日でも、十分な予診を行い、健康状態をチェックしても、予知できない重篤な副反応や、後遺症を残す場合も全く皆無とは言えません。